

平成30年度

事業報告書

この1年間、きらら3施設が頑張ったこと！

その成果と反省



社会福祉法人
県民厚生会

目次

1. 平成 30 年度事業報告 P 1 ～P 5
2. 法人単位資金収支計算書 P 6
3. 法人単位事業活動計算書 P 7
4. 法人単位貸借対照表 P 8
5. 施設別・事業所別事業実績表 P 9 ～10
6. 事業所別利用者推移表 P11
7. 平成 30 年度法人行事日誌 P12
8. わが事業所の取組み

【富士】 P13～

【藤枝】 P18～

【浜松】 P23～



平成30年度事業報告

1. 概況

平成30年度は、社会福祉法人制度改革への対応のフォローアップが求められる年度になると考え、県民厚生会としては引き続きガバナンスの強化、経営体力の充実を目指して社会福祉法人としての自立力を高める努力をして行くこととしました。

一方、介護業界の慢性的な人材不足に加え、更に人材確保が困難になると言われており、人材確保力の強化が急務でした。幸い、ここ3年間は介護報酬の引き下げがないと見込めることから、人材確保力を高めていくための職員の処遇改善や、人材育成諸制度などの充実を図るため1年をかけ労使で取組んできました。

また、理念の実現とコンプライアンスの徹底という最も重視する取組は、各施設とも介護の質の向上を目指してその実現に向けて取り組んできました。コンプライアンスの徹底も、年々充実してきた内部監査の結果からも、職員の中にコンプライアンス意識の高まりが感じられます。



ここ数年のテーマでもあるイノベーションについては、業務の効率化に向けて業務分担の見直しや職員構成の見直しなどを行いましたが、具体的な成果にはつながらず、イノベーションの進め方を含め、次年度に課題を残しました。

社会福祉法人制度改革のもう1つの眼目である、地域における公益的な活動を強化して、地域の中での相互扶助の中核的役割を果たし得る存在になることを目指す活動についても、昨年の活動経験を活かして積極的に展開し、各施設とも新たな活動領域が大きく広がってきました。

その結果、地域の中でのきららの存在が広く認識されつつあることが実感され、地域諸団体や住民から、各種の相談や取組への参加・協力要請などが寄せられるようになり、活動に参加した多くの職員は手ごたえを感じるとともに、より一層この活動の重要性が認識されました。

2. 30年度の実施の成果と課題

① 労使の協力による職場環境の改善と人材育成の取組

ア. 勤怠（新給与計算）システムは、3施設で順次試行を行い、課題を整理した上で、30年度上期から本格稼働しました。

イ. 介護テクノロジーの活用については、タブレット端末を導入し、業務の効率化を図りました。

ウ. 人材育成制度の確立については現在も検討しているところですが、その一環である「公的資格援助制度」を発足させました。

エ. 定年延長、熟練職員の活用については、定年制度の65歳までの延長と退職金制度の改定を行うこととし、平成31年度から新たな制度がスタートしました。定年延長に伴って、定年後の嘱託職員の雇用を70歳までとし、60歳以降の働き方についても本人の希望により多様な働き方が可能となるよう内規を定めました。

退職金制度については、従来の本俸を退職金計算の基礎給とする方式から、本俸とは別テーブルの退職金基礎給を定めて勤続年数別の退職金支給率を乗ずる方式に改め、自分の退職金が計算できるようにしました。

退職金制度の変更之际、既得権と一定の期待権を保障することで職員にとっての不利益変更が生じないようにしました。

オ. 業務の仕訳と役割分担による業務負担の軽減化については、一部の部門ではありますが、用務員さんの活用など進みつつあります。



② 利用者の満足度を高める介護サービスの展開

ア. 利用者アンケートや家族会などを通じて利用者・ご家族の声を収集していますが、事業運営の改善にまでは至りませんでした。

イ. きららイノベーション活動については、その必要性は認識しており、利用者の声からニーズを探り、イノベーションに結び付ける試みを行いました。具体的なイノベーションには至っていません。

ウ. 法令遵守・サービス充実策として、「第三者評価制度」や「内部統制向上支援」等の外部制度については手が付けられず、31年度に引き継ぐこととしました。

エ. 30年度から隔年開催することとなった研究発表会を実施しました。2年ぶりの開催でしたが、各施設とも職員の意識は高く、大変レベルの高い内容の素晴らしい研究発表会となりました。



③ 地域における公益的取組の推進

前年の取組を通じて、地域にも広く受け入れられるとともに、地域のニーズも把握できるようになってきましたので、それに伴って活動内容が広がり、社会福祉法人としての責務を果たす取組も増加してきています。



前年度から行っていたサロンの活動やきららカフェ、介護教室、子供食堂、ワンコインランチなどの他、介護予防体操教室、スーパーの移動販売等々、新たな活動に着手する機会や機運が出てきました。



きららの活動を知った地域住民からの期待の高まりも実感していますし、藤枝では地域からの申し入れにより、買い物に行けない高齢者の移動支援事業を新年度から行うことになるなど、地域の団体との新たな関係も生まれてきています。

④ きらら富士の新事業の研究開始

新たな事業を展望するにあたって、当面は大きな投資ができないことから事業の選択に制限があり、具体的な議論には至っていませんが、行政の介護事業にかかわる方向性を知ることや、地域のニーズを把握することについて検討を始めました。

3. 事業の成果と課題

事業所別「年間利用者数」の推移

(単位:人・回)

(1) 事業活動収入

平成30年度も前年実績を上回る1,127百万円の高い収入目標を掲げ、月次毎に事業の進捗状況を点検しながら取り組んできました。結果、1,168百万円の収入となり、全施設が目標を達成しました。事業所単位でも、昨年同様、14事業中10事業で目標を達成し、藤枝では4事業全てが目標達成という大きな成果を上げることができました。

高齢者を顧客とする事業の性格上、利用終了者が毎月一定数出ますので、常に利用終了者数以上の新規利用者を確保していくことができなければ達成できないことです。これは常に施設・事業所が目標を意識し、進捗状況を点検しながら事業を進めたことの表れであるといえます。

また、3年目に入った浜松の新事業も順調に利用を拡大しており、浜松全体の事業収入増加に大きく貢献しています。

富士	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度比
GH	3,015	3,277	3,215	3,214	-1
DS	7,344	7,764	7,375	8,183	808
HC	13,972	15,160	15,164	13,511	-1,653
CP	1,288	1,700	1,837	1,972	135

藤枝	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度比
特養	25,138	25,162	25,320	25,422	102
SS	6,436	6,185	6,193	6,753	560
DS	6,423	5,555	6,340	7,709	1,369
CP	806	1,118	1,129	1,646	517

浜松	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度比
GH	6,494	6,433	6,513	6,383	-130
DS	9,668	10,840	11,749	11,147	-602
HC	13,147	15,847	14,702	15,164	462
CP	2,474	3,079	3,602	3,721	119
SS		496	5,552	6,272	720
機能DS		576	6,106	8,459	2,353

※CPの年間利用者数=年間請求者数。

※HCの年間利用者数=年間訪問利用回数。

(2) 資金収支の確保

将来の施設整備や人材確保に備えた現金預金(支払準備資金)の充実に向け、当

期収支差額についても目標を設定して取り組みました。

平成 30 年度も一定の当期収支 12 百万円を確保できましたが、人件費の増加等で前年度を下回る結果（前年度比▲ 7 百万円）となりました。効率的な事業運営によりコストを抑え、法人全体で 30 百万円程度の当期収支を確保して、現金預金残高 3 億円を早期達成していくことが今後の重要な事業課題です。

4. 施設事業の特徴点

【富士】

低迷気味であったデイサービスが大きく復調、順調に事業を展開してきたケアプランセンターも昨年を上回る事業収入を上げました。グループホームとヘルパーセンターが収入目標未達でしたが、富士全体としては目標を達成しました。

グループホーム等の入所事業は空室期間ができますとその間の収入減を補う加算制度等がないため、目標収入を確保することが難しいという性格を持っています。空室期間を作らないよう努力してきましたが、今年度はやむを得ない状況により一定期間の空室があり、介護度の改善による収入減もあり目標が未達に終わりました。

ヘルパーセンターは 2 年連続の目標未達でした。主に利用数の減少によるものですが、サービス料金の高い身体介護が減少し料金の低い生活支援の比率が高まっていることも大きく影響しています。地域にはヘルパーの利用ニーズも充分あると見ていますが、事業の担い手となっている契約ヘルパーの採用が困難になっているため、ニーズに十分対応できないケースもあります。昨年来、契約ヘルパーの採用に向けて、施設は様々な手法を試して募集活動を行っていますが、具体的な効果を上げるには至っていません。

その一方、法人全体として人件費が増加している中、富士は各事業とも少ない人員で頑張った結果、人件費の増加を抑え収入規模に対し高い利益率を確保、収支差額は前年比で大きく増加しました。



【浜松】

平成 29 年度度は 6 事業がすべて収入目標達成という大変大きな成果を上げましたが、今年度はグループホームとデイサービスの 2 事業がわずかに目標を下回ってしまいました。グループホームは入所者の入院等の空室期間が想定を上回ったというやむを得ない事情がありました。デイサービスは、上期は利用制限が必要なほど順調な利用状況でしたが、下期に入り利用回数の多い利用者の施設入所等による利用終了が相次ぎ、利用が低迷しました。利用回復のための営業活動で利用状況は回復を見せています。

ヘルパーセンター、ケアプランセンター、新事業のショートステイ、機能訓練デイサービスはいずれも昨年実績を上回る事業収入を上げ、順調に事業を展開しました。特に、3年目に入った新事業のショートステイと機能訓練デイは飛躍的に事業収入を伸ばし、浜松全体の目標達成に大きく貢献しました。

ただ、事業収入を上回る人件費の増加で施設全体の収支差額は前年度を大きく下回る結果となりました（前年度比▲百万円）。収入が4億円を上回る事業をいかに効率的に運営していくのが浜松の重要な課題です。

地域住民の交流の場「地域交流室」については、今年度も一層積極的に活用し、きららが地域住民の共有財産として日常的に関わっていただけていることも、きらら浜松の事業を大切にしていだける大きな要素になっています



【藤枝】

開設以来初めて全事業が収入目標を達成した上、全事業が前年度実績を大きく上回りました。特にデイサービスは、目標を達成した昨年実績を10百万円以上上回る大きな伸びとなりました。また特養、ショートステイ、ケアプランセンターも同じく昨年を大きく上回る大きな実績を上げ、藤枝全体の事業収入は前年度比3千万円以上の大きな増加となりました。

特養・ショートステイの要員不足解消が課題となっていますが、その一方、効率的な要員対策でコストを抑制し、収支差額も前年度を10百万円以上上回る素晴らしい結果となりました。

地域における公益的な取り組みも施設を挙げて積極的に行い、多くの職員が参加することを通じて施設の一体化が大きく進んだことも、全事業が目標達成という大きな成果を上げた大きな要因となっています。

地域における活動は、きららサロンが定着し、参加者、リピーターが増加しています。スーパーの移動販売や子供食堂などの新たな取組も展開してきたことから、地域社協やボランティア連絡会、地域包括などからの評価も受ける存在になってきました。地域住民の中でのきららの存在、理解が深まってきたことは、デイサービスやショートステイの利用につながり、全事業の目標達成の背景と考えます。



5. 施設・事業所からの報告

後掲「わが事業所の取組み」を参照願います。

法人単位資金収支計算書

(自)平成30年 4月 1日(至)平成31年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	1,168,943,000	1,163,692,360	5,250,640	
	経常経費寄附金収入	130,000	130,000	0	
	受取利息配当金収入	2,000	2,244	△ 244	
	その他の収入	4,920,000	4,917,851	2,149	
	事業活動収入計(1)	1,173,995,000	1,168,742,455	5,252,545	
	支出				
	人件費支出	885,556,000	885,496,464	59,536	
	事業費支出	104,098,000	103,049,824	1,048,176	
	事務費支出	148,062,000	145,700,844	2,361,156	
利用者負担軽減額	1,771,000	1,415,953	355,047		
支払利息支出	1,447,000	1,445,973	1,027		
その他の支出	2,275,000	2,221,176	53,824		
事業活動支出計(2)	1,143,209,000	1,139,330,234	3,878,766		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	30,786,000	29,412,221	1,373,779		
施設整備等による収支	収入				
	固定資産売却収入	8,000	8,000	0	
	施設整備等収入計(4)	8,000	8,000	0	
	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	6,417,000	6,416,000	1,000	
	固定資産取得支出	767,000	766,375	625	
ファイナンス・リース債務の返済支出	6,212,000	6,192,288	19,712		
施設整備等支出計(5)	13,396,000	13,374,663	21,337		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 13,388,000	△ 13,366,663	△ 21,337		
その他の活動による収支	収入				
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出				
	積立資産支出	2,000,000	2,000,000	0	
	その他の活動による支出	1,460,300	1,446,000	14,300	
その他の活動支出計(8)	3,460,300	3,446,000	14,300		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 3,460,300	△ 3,446,000	△ 14,300		
予備費支出(10)	2,800,000	—	2,791,000		
	△ 9,000				
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	11,146,700	12,599,558	△ 1,452,858		
前期末支払資金残高(12)	397,299,221	397,299,221	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)	408,445,921	409,898,779	△ 1,452,858		

(注) 予備費支出△9,000円は利用者等外給食費支出に充当した額である。

法人単位事業活動計算書
(自)平成30年 4月 1日(至)平成31年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	介護保険事業収益	1,163,692,360	1,113,799,385	49,892,975
	経常経費寄附金収益	130,000	62,040	67,960
	サービス活動収益計(1)	1,163,822,360	1,113,861,425	49,960,935
	費用			
	人件費	891,329,112	851,716,270	39,612,842
	事業費	103,049,824	99,767,137	3,282,687
	事務費	145,909,901	145,954,705	△ 44,804
	利用者負担軽減額	1,415,953	1,264,118	151,835
	減価償却費	79,691,963	81,648,749	△ 1,956,786
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 8,503,047	△ 9,083,781	580,734	
徴収不能額		29,819	△ 29,819	
サービス活動費用計(2)	1,212,893,706	1,171,297,017	41,596,689	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△ 49,071,346	△ 57,435,592	8,364,246	
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	2,244	2,158	86
	その他のサービス活動外収益	4,917,851	4,851,101	66,750
	サービス活動外収益計(4)	4,920,095	4,853,259	66,836
	費用			
	支払利息	1,782,494	1,661,848	120,646
	その他のサービス活動外費用	2,221,176	2,658,582	△ 437,406
	サービス活動外費用計(5)	4,003,670	4,320,430	△ 316,760
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	916,425	532,829	383,596
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	△ 48,154,921	△ 56,902,763	8,747,842
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益		2,775,600	△ 2,775,600
	固定資産受贈額		1,690,000	△ 1,690,000
	固定資産売却益	7,999		7,999
	その他の特別収益	661,755	8,117	653,638
	特別収益計(8)	669,754	4,473,717	△ 3,803,963
	費用			
	固定資産売却損・処分損	1	4	△ 3
	国庫補助金等特別積立金積立額		2,775,600	△ 2,775,600
	特別費用計(9)	1	2,775,604	△ 2,775,603
特別増減差額(10)=(8)-(9)	669,753	1,698,113	△ 1,028,360	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 47,485,168	△ 55,204,650	7,719,482	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	△ 340,087,994	△ 279,883,344	△ 60,204,650
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	△ 387,573,162	△ 335,087,994	△ 52,485,168
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)			
	その他の積立金積立額(16)	2,000,000	5,000,000	△ 3,000,000
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	△ 389,573,162	△ 340,087,994	△ 49,485,168

法人単位貸借対照表

平成31年 3月31日現在

(単位:円)

	資産の部			負債の部			
	当年度末	前年度末	増減	当年度末	前年度末	増減	
流動資産	437,738,781	422,504,133	15,234,648	流動負債	121,848,038	100,777,939	21,070,099
現金預金	250,204,058	235,031,962	15,172,096	事業未払金	27,840,002	25,100,152	2,739,850
事業未収金	186,174,695	186,005,029	169,666	その他の未払金	0	104,760	△ 104,760
未収金	207,252	244,264	△ 37,012	1年以内返済予定設備資金借入金	17,724,000	6,416,000	11,308,000
未収補助金	95,620	332,888	△ 237,268	1年以内返済予定リース債務	6,192,288	6,192,288	0
前払金	449,400	432,300	17,100	1年以内支払予定長期未払金	1,446,000	1,446,000	0
前払費用	607,756	457,690	150,066	賞与引当金	68,645,748	61,518,739	7,127,009
固定資産	1,359,941,733	1,437,412,901	△ 77,471,168	固定負債	372,087,608	399,406,012	△ 27,318,404
基本財産	1,239,548,871	1,300,138,181	△ 60,589,310	設備資金借入金	295,860,000	313,584,000	△ 17,724,000
土地	213,468,582	213,468,582	0	リース債務	20,982,456	27,174,744	△ 6,192,288
建物	1,026,080,289	1,086,669,599	△ 60,589,310	退職給付引当金	50,361,752	52,317,868	△ 1,956,116
その他の固定資産	120,392,862	137,274,720	△ 16,881,858	長期未払金	4,883,400	6,329,400	△ 1,446,000
構築物	24,492,067	29,003,534	△ 4,511,467	負債の部合計	493,935,646	500,183,951	△ 6,248,305
車輛運搬具	1,173,302	1,613,290	△ 439,988	純資産の部			
器具及び備品	31,955,495	39,412,706	△ 7,457,211	基本金	1,473,799,100	1,473,799,100	0
有形リース資産	18,997,536	22,101,768	△ 3,104,232	第1号基本金	1,309,299,100	1,309,299,100	0
権利	794,929	834,503	△ 39,574	第3号基本金	164,500,000	164,500,000	0
ソフトウエア	116,100	148,500	△ 32,400	国庫補助金等特別積立金	208,518,930	217,021,977	△ 8,503,047
無形リース資産	8,513,856	11,265,264	△ 2,751,408	その他の積立金	11,000,000	9,000,000	2,000,000
施設整備等積立資産	11,000,000	9,000,000	2,000,000	施設整備等積立金	11,000,000	9,000,000	2,000,000
差入保証金	22,240,000	22,240,000	0	次期繰越活動増減差額	△ 389,573,162	△ 340,087,994	△ 49,485,168
長期前払費用	1,009,577	1,555,155	△ 545,578	(うち当期活動増減差額)	△ 47,485,168	△ 55,204,650	7,719,482
その他の固定資産	100,000	100,000	0	純資産の部合計	1,303,744,868	1,359,733,083	△ 55,988,215
資産の部合計	1,797,680,514	1,859,917,034	△ 62,236,520	負債及び純資産の部合計	1,797,680,514	1,859,917,034	△ 62,236,520

施設別・事業所別事業実績表

平成30年度資金収支実績表

(単位:千円)

富士	GH	DS	HC	CP
事業活動収入	45,430	74,710	52,520	25,170
人件費支出	31,950	47,810	40,370	17,970
事業費支出	5,050	6,950	490	360
事務費支出	5,350	13,000	2,810	2,210
その他支出	100	630	280	80
支出 計	42,460	68,410	43,960	20,640
当期収支差額	2,960	6,290	8,550	4,530
(計画値)	5,700	800	9,900	2,600
※前年度	6,000	-1,200	7,700	3,600

藤枝	特養	SS	DS	CP
事業活動収入	353,320	89,640	75,780	21,590
人件費支出	248,790	60,820	48,710	21,290
事業費支出	40,670	9,600	6,100	260
事務費支出	46,500	11,730	11,160	2,040
その他支出	4,980	360	620	340
支出 計	340,950	82,520	66,610	23,950
当期収支差額	12,370	7,120	9,170	-2,350
(計画値)	14,000	3,900	-1,400	-5,400
※前年度	12,700	3,500	-3,200	-1,100

浜松	GH	DS	HC	CP	SS	機能DS
事業活動収入	89,120	94,340	55,210	47,320	80,680	63,720
人件費支出	69,190	64,240	49,790	38,390	69,520	46,090
事業費支出	9,130	7,950	610	540	8,720	6,550
事務費支出	10,460	17,800	3,220	3,920	5,280	5,110
その他支出	580	590	300	130	5,810	3,430
支出 計	89,370	90,600	53,930	43,010	89,330	61,190
当期収支差額	-240	3,730	1,270	4,310	-8,650	2,530
(計画値)	2,600	8,300	4,200	3,600	-11,200	5,500
※前年度	11,800	16,500	4,300	6,600	-4,300	200

	富士	藤枝	浜松	法人本部	法人 計
事業活動収入	197,830	540,350	430,410	130	1,168,740
人件費支出	138,120	379,630	337,230	30,500	885,490
事業費支出	12,870	56,640	33,530	0	103,040
事務費支出	23,380	71,450	45,820	5,030	145,690
その他支出	1,100	6,320	10,860	150	18,450
支出 計	175,480	514,050	427,460	35,700	1,152,700
当期収支差額	22,350	26,310	2,950	-35,570	16,040
(計画値)	19,100	11,100	13,200	-35,100	8,400
※前年度	16,300	11,800	35,300	-43,700	19,700
※人件費比率	69.8%	70.2%	78.3%		75.7%
(計画値)	71.3%	72.9%	74.6%		75.8%

(注)

- ① その他支出は、その他の事業活動支出+施設整備等支出の計。
- ② 当期資金収支差額は、積立資産支出、拠点間繰入出金等のその他の活動収支額を除く。
- ③ 万円未満切り捨てのため、合計金額の端数は相違する場合がある。

施設別・事業所別「収入・支出・資金収支」の推移 (直近3ヶ年)

(単位：千円)

きらら 富士	グループホーム			デイサービス			ヘルパセンター			ケアプランセンター		
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
事業活動 収入	45,192	46,883	45,433	73,290	68,233	74,710	54,009	57,798	52,521	21,458	23,270	25,173
事業活動 支出	42,273	40,617	42,394	71,276	68,902	68,061	43,383	47,836	43,792	17,854	19,572	20,610
当期収支 差額	2,120	6,098	2,969	448	-1,217	6,297	8,406	7,772	8,551	3,472	3,655	4,531

きらら 藤枝	特養			ショートステイ			デイサービス			ケアプランセンター		
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
事業活動 収入	334,493	343,919	353,329	80,329	82,728	89,642	54,361	63,737	75,789	14,954	16,763	21,596
事業活動 支出	308,243	326,554	337,613	78,399	78,992	82,275	62,106	66,836	66,390	16,625	17,867	23,733
当期収支 差額	21,892	12,766	12,373	1,779	3,571	7,123	-7,815	-3,281	9,172	-1,675	-1,192	-2,357

きらら 浜松	グループホーム			デイサービス			ヘルパセンター			ケアプランセンター		
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
事業活動 収入	88,313	93,104	89,126	97,518	106,105	94,341	53,055	52,203	55,212	39,239	45,798	47,326
事業活動 支出	77,216	80,530	88,917	91,265	85,360	90,281	50,018	47,717	53,792	34,240	38,935	42,956
当期収支 差額	10,632	11,843	-249	4,679	16,582	3,739	2,985	4,323	1,272	4,954	6,688	4,316

きらら 浜松	ショートステイ			機能訓練デイサービス		
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
事業活動 収入	6,358	72,003	80,685	3,858	46,012	63,723
事業活動 支出	20,223	78,100	84,528	13,306	45,155	58,334
当期収支 差額	-92,234	-4,324	-8,654	-81	242	2,530

施設 計	富士 計			藤枝 計 (法人除く)			浜松 計		
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
事業活動 収入	193,949	196,184	197,837	484,137	507,147	540,356	288,341	415,225	430,413
事業活動 支出	174,786	176,927	174,857	465,373	490,249	510,011	286,268	375,797	418,808
当期収支 差額	14,446	16,308	22,348	14,181	11,864	26,311	-89,606	35,354	2,954

	法人本部		
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
事業活動 収入	171	153	130
事業活動 支出	44,802	43,289	35,644
当期収支 差額	-44,735	-43,776	-35,570

	法人 計		
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
事業活動 収入	966,598	1,118,709	1,168,736
事業活動 支出	971,229	1,086,262	1,139,320
当期収支 差額	-105,714	19,750	16,043

- ①千円未満切り捨て。
- ②当期収支差額は「その他活動収支」を除く。
- ③端数処理で合計金額が相違する場合あり。

平成30年度 法人行事日誌

月	主な行事	月	主な行事
4月	常勤理事会（6日） 合同事務会議（19日）	10月	常勤理事会（5日） 第3者委員会（5日） 監事監査（業務監査）（18日）
5月	常勤理事会（7日） 第3者委員会（7日） 監事監査（会計監査）（29日） 第73回理事会（31日）	11月	常勤理事会（5日） 第75回理事会（30日）
6月	常勤理事会（4日） 第2回評議員会（18日）	12月	常勤理事会（7日） 共同決定委員会（7日） 30年度第2回全施設管理者会議（25日）
7月	常勤理事会（6日） 30年度第1回全施設管理者会議（24日）	1月	常勤理事会（7日） 第76回理事会（30日）
8月	常勤理事会（6日） 共同決定委員会（6日） 第74回理事会（31日）	2月	常勤理事会（4日） 合同事務会議（15日）
9月	常勤理事会（7日） 30年度研究発表会（23日）	3月	常勤理事会（5日） 第77回理事会（29日）

【内部監査実施日】

6月26日 浜松HC	9月18日 藤枝DS	11月27日 浜松GH
7月20日 富士DS	9月27日 浜松DS	12月10日 富士CP
8月17日 藤枝CP	10月26日 浜松CP	12月20日 浜松機能DS
8月22日 富士GH	10月30日 藤枝特養・SS	1月29日 浜松SS
	11月20日 富士HC	

わが事業所の取組

きらら富士 事業報告



H30年度きらら富士の施設目標



＊一年間、笑顔でいてくれてありがとう＊

施設長

利用者様と職員の笑顔が絶えない1年でした 事務

きらら富士グループホーム

30年度はご入居者・ご家族・職員が、互いに寄り添いみんなが幸せに過ごせるホーム作りを行うことを目標に取り組んできました。



料理もおてのもの★



地域の文化祭

家族旅行で港公園
に行ってきました。
皆で大きな声で叫ん
で大笑いでした。



いつまでも自分らしくいていただくために
これからもチーム一丸となりご入居者様と一
緒に歩み続けます。



秋の大運動会

きらら富士デイサービスセンター事業報告



季節の行事、おやつ作り、制作活動等、さまざまな活動を通し、1人1人が輝けるデイサービスを目指しています。
 デイのフロアは利用者様と職員の笑顔であふれています。

年間延べ利用人数 8186人
 男性 2331人
 女性 5855人

日頃から個別機能訓練を行っている方を対象に屋外歩行練習を実施。春には中央公園、秋には大柵の滝に出かけました。



質の高いサービスを提供できるよう、介護技術、知識の向上に努めていきます。

平成30年度を振り返って

平成30年度は機能訓練士指導員の変更、センター長の異動に伴う交代があり、きららデイサービスセンターにとっては変化の大きな1年となりました。
 利用者数は年間を通して変動があり、目標平均利用者数27人/日のところ、26.5人(年間平均)とわずかに届きませんでした。

今後も「きららしさ」を守りつつ、新しいことも積極的に取り入れ、皆様に満足していただけるデイサービスを目指し頑張っていきたいと思っております。

きらら富士ヘルパーセンターの取り組み

きらら富士ヘルパーセンターは、平成30年10月より、センター長が交替しました。体制を整え、ご利用者の在宅生活継続のため、日々奮闘しています。



平成31年きらら富士ヘルパーセンターの目標

一、私達は、好感の持てる対応をいたします。

一、私達は、専門性を持って、ご利用者様の自立支援をいたします。



平成31年の新年を迎え、ヘルパー同士で話し合い、センターとしての目標を掲げました。「専門性」と「自立支援」がきらら富士ヘルパーの強みですと言われるよう、頑張っていきます。

平成30年度は、事業を一旦整えることを行ってきました。いわばヘルパーセンターの「棚卸し」のようなものです。ご利用者に対しては、受け身の介護から自立支援への転換を図り、事業所としては、無理無駄をき、必要な仕事がしっかりできるように、記録や事務、モニタリングやプランを見直し、残業の大幅削減もできました。

研修制度も整えました。ヘルパー全体で行なう研修のほか、ヘルパー個々の目標や希望に則った個別研修(2~3名の少人数で行う研修)を行っています。



きらら富士 ケアプランセンター

きらら富士ケアプランセンターは現在5名体制となり活動しています。昨年は職員の退職、移動に伴いメンバーも新しくなりました。お互いのケースについては日々相談しあい、チームワークを深めながら、支援にあたってきました。今後も地域の活動に積極的に参加し、顔を知って頂くとともに、質の高い支援を提供できる事業所を目指していきます。

青葉台文化祭



11月 青葉台地区文化祭では、コーヒーとカステラの販売を行いました。地域の方との交流の機会となりました。



きららカフェ



3月のきららカフェでは、フルートの演奏を聴き、お茶会（お抹茶とようかん）を行いました。

サロン 認知症サポーター養成

定例会での勉強会



10月 広見地区のサロンに伺い、認知症サポーター講座を開催しました。皆さん熱心に聞いて下さいました。



わが事業所の取組

<ご利用者様の最高の笑顔のために>

【きらら藤枝 施設全体】

30年度は全事業所が目標を達成するといった快挙を成し遂げました。特にデイサービスとショートステイは地域包括支援センターや外部居宅からの信頼を得て、新規紹介が多い1年でした。また、特養においても、入居対象者が要介護3以上の方に限定されながらも、退去による空き日数は少なく、これまでにないくらいの入居率でした。この要因は、職員たちの、入居者様に寄り添ったケアと、一昨年から導入した訪問歯科により、歯科医師や衛生士のご指導のもと、職員が行う丁寧な口腔ケアのおかげで、口腔内の環境がよくなり、体調を崩される方が格段に減っているからではないかと推測されます。

また、今年度特に力を入れて取り組んできたことは、職員の『接客・マナーの向上』です。その基本となる『理念』と『運営方針』をきらら藤枝職員は誰もが言えるようにしようと、施設のあちこちで唱和する声が多く聞かれた1年でした。全職員で取り組むことによって、職員の接客マナーやケアの向上にもつながっていききました。

地域に向けた活動では「きららサロン」がマンネリ化しないよう、委員会で職員が知恵を出し合い、楽しいサロンを開催することができましたし、地域の高齢者サロンの7会場から、きらら職員の派遣依頼を受けました。その活動から、次年度に向けての新たな事業となる移動支援につながり、着実に認知度を高めてまいりました。

まだまだ、きらら藤枝として地域に向けて発信できることはあると思いますので、積極的に地域との交流を深め、お客様や地域の皆様に信頼されるきらら藤枝であり続けられますよう、職員一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。

施設長 望月 忍

介護予防体操教室



子ども食堂「まつぼっくり」



伝統文化ふれあい茶会



来年度もたくさんの出会いを楽しみに、きらら藤枝は頑張ります♡

「きららまつり」おでんチーム



特養 多職種の面々



移動支援事業始まります



H30年度キラキラ輝く笑顔!!

きらら藤枝 特養



18

平成30年度も、昨年度に引き続き事業目標を達成する事が出来ました。空き日数が少なく、稼働が順調に推移した結果です。1年間、例年に比べ体調を崩される方が少なく、皆様に元気に過ごして頂きました。また個別機能訓練が始まり、機能訓練指導員を中心にADLの維持向上に努めています。

毎月色々な行事やイベントを企画して楽しんで頂けるよう、施設内はもちろんのこと、外出に出かけました。職員も入居者と楽しく過ごさせて頂き、『入居者の笑顔を望むなら、まずは職員の笑顔を』目指しています。

平成30年度は、ケア・私達の仕事の全てに繋がる接遇について取り組んできました。入居者への対応だけでなく、職員間の接遇にも取り組みました。まだまだ完全ではありませんが、意識改革ができて向上していると感じています。入居者に寄り添ったケア実現のため、これからも努力していきます。

業務においては、記録をiPadによる電子化を進めました。初めは慣れるまでスムーズにいかず、時間がかかりました。みんなで勉強会や日々習得に努め、記録の時間を削減する事ができました。まだ完全にシステムを運用できていないので、今後さらなる活用を進めていきます。これからも働きやすい環境を作れるよう、業務改善に努めます。

行事・イベント

毎月季節を感じ、みんなで楽しみました。



外出レク



きららのIT化。勉強会をして、みんなでがんばりました。

【 きらら藤枝 ショートステイ 】



作品、お土産です



耕春院に紫陽花を見に行きました。



30年度はショート職員にとっては大変な年となりましたが業務改善等を考えながらご利用者の為に必死の1年でした。今までの様にイベントレクリエーションが沢山出来なくても職員の明るさ、優しさでご利用者と向き合い、おやつレクでみんなで食べてみんなで笑顔になりました。



美味しい笑顔があふれています ^^

新成人と一緒に...



職人技

平成30年度に掲げた1日平均利用者数25人以上には、もう一步のところでしたが、たくさんの利用者様にきていただくことが出来ました。職員もその中で、ケアの質を向上出来る様に毎月のデイ会議での勉強会を実施し、防災訓練では、職員の役割分担を決めました。まだまだ、日々の生活に組み込まれていない部分はありますが、より良いデイになるよ努力をしています。また、地域の方とも明るくあいさつできる親しみのある職員を心がけた1年でした。



きらら藤枝 デイサービスセンター 平成30年度 事業報告



瀬戸川の桜お花見

カツオの解体ショー



園芸



おやつ作り



【 きらら藤枝ケアプランセンター 】



平成30年度は職員の変動がありましたが、地域包括支援センターの研修参加や連携の強化により利用者数を順調に伸ばすことができました。施設内では地域サロンやきららサロンに協力して、参加者の盛り上げに貢献する事が出来ました。

特定事業所加算の算定事業所としては、他事業所との連携による合同事例検討会の開催など、新しいことにも取り組みました。

事務所内がいつも明るく活気のある職場となるよう、これからも声を掛け合いながら業務に取り組んでいきます。

わが事業所の取り組み

【きらら浜松 施設長・事務】

平成 30 年度を振り返って

たくさんの方々に支えていただきありがとうございました。

そしてお疲れさまでした。

西館は 2 年目に突入、土台作りどころか大きな飛躍、たくさんのご利用がありました。本館と背を並べ、6 事業所とも安定した運営ができた一年間でした。

事故や怪我もあり心痛める出来事もありました。ご家族にとって大事なご利用者様だという事を念頭に置き、寄り添いながら、安全安心できららで過ごしていただけますように今後も取り組んでいきたいと思ひます。

30 年度は要支援の利用者の増加で単価が低く事業活動収入が前年度に比べ下がり、年度末には何とか収支差額も黒字で終わりましたが、社会福祉法人の在り方など課題が残る一年間でした。先駆けて働き方改革に取り組み、有給の取得率も意識し、職員の離職率も低くきららで働きたいと思ってくれる職員も増えました。一年間を振り返り、管理者をはじめ職員の成長を随所に感じました。理念を理解し、これからも色々な困難があっても皆で助け合い乗り越えることができると思っています。

今年度をもって 12 年間やらせていただいた施設長職を退任しますが、人と人との繋がりが、たくさんのお会いや別れの中で自分自身もたくさん成長させていただき、感謝の一言に尽きません。これからも暖かく見守っていきますので今後ともよろしくお願ひします。

施設長 太田悦子

令和元年は、6事業所の安定したセンター長に加え、施設長が交代となり、事務長と力を合わせての、新体制で始まります。

西館交流室で行なわれる公益的な取り組みを各事業所が中心となり、取り組みの幅を広げ、様々な年齢層の方に利用し、喜んでいただけるようにしていきたいと考えています。

よろしくお願ひします。



きららカフェコンサート
毎月開催中♪

ワンコインランチも大好評！



きらら浜松デイサービスセンター

●佐鳴湖公園お花見●



●地域の方との防災訓練●



●近くの神社へ初詣●



30年度きららデイサービスでは、例年行っている外出行事や手作りおやつ以外に、職員主催のカルチャー教室を企画し行いました。水彩や絵手紙など、初めてチャレンジする方も多く、ご利用者様も楽しいと喜ばれていました！

●お楽しみ食 (ちらし寿司) ●



今年のご利用者様にいっそう喜んで頂けるよう、昼食のお楽しみ食を増やしていきます！

●カルチャー教室●

クラフト



習字



手芸



水彩



絵手紙

きらら浜松 グループホーム

30年度は会議の中で改善案を出してもらい業務改善に取り組みました。まだ課題はありますが、改善して行こうという意識はもてたように思います。また、担当職員が中心となり入居者様の生活の質を高める努力もしました。入居者さんの笑顔も沢山見られたように思います。



ご家族の意見を吸い上げる取り組みとして毎年行っている家族会を30年度は2回開催しました。「他のご家族と意見交換をする事が出来てとても良かった。」と、ご家族様からは大変好評でした。



4月から体制が大きく変わりましたが、温かなグループホームを目指していきます



きらら浜松 ヘルパーセンター

30年度は、担当利用者の見直しを行い利用者の身体的な面だけではなく精神的な変化にも細やかに対応できるようにしました。



寝たきりだった方がデイサービスに通えるようになり、ヘルパーまかせだった買い物や掃除が共に行えるようになるなど自立支援に向けた介護を目指しました。



きらら浜松ショートステイ



まつりのラッパに合わせてバンザ〜イ!

活気あるショートステイを目指して2年が過ぎました。

平成30年度はご利用者様に対しても業務に対しても、職員がそれぞれに工夫を凝らし奮闘した1年間でした。

仲良く笑って楽しく働けることがご利用者様への満足度に繋がると思います。

個別に対しての取り組みにも力を入れていきたいと思ひます。

個別で絵画に挑戦!



きらら猿回し一座は
今日も大人気!



ご利用者様による大正琴の演奏会を開催することができました。



H30年度 きらら浜松 機能訓練デイサービス

立ち上げから2年4ヶ月が経ちました。職員一同がよりよいサービスを提供しよう！と日々、頑張っているおかげもあり、順調に利用人数も増え、定員待ちの曜日も出ています。今後も利用者様達がりハビリをしたい！というご希望に添えるように頑張っていきたいと思ひます。



いっちにっ！いっちにっ！



事業所 一文字

- ・思いやりの心を持って他人に対して接しれる
- ・優れたデイを目指し、皆で楽しく活気のあるデイを目指していきます

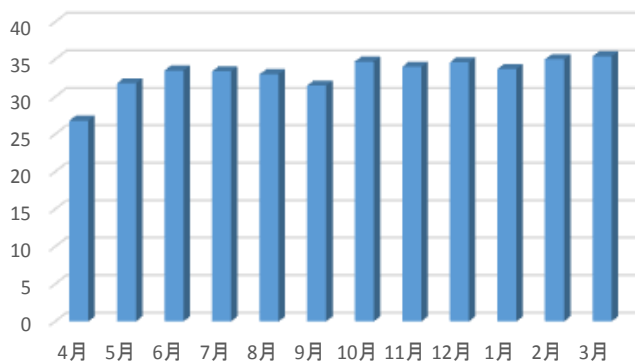


歩行訓練し休憩中



上手でしょ～

月別 実績 利用人数(30年度)



みんなで緊急時の対応訓練

H30 きらら浜松ケアプランセンター



H30年度のケアプランセンターは個々での研修が多かった一年でした。新しい事を学んだら他のメンバーと共有し、全体の向上を図りました。きららカフェにも毎回、参加する事で地域の人とも顔見知りとなり、名前を覚えていただきました。R元年度も8人体制で協力しながら施設活動やケアに取り組みたいと思います。

職員一同より



第6回 研究発表会 優勝!!!



民生委員さんとの交流会



忘年会



きらら祭り



←利用者様宅から引き取られたウサギは大切に杉浦家で育てられて馴染んでいます





きらら（富士・藤枝・浜松）法人	氏名	
特養・GH・DS・HC・SS・CP・事務		